

新潟市都市計画基本方針

市の都市計画の基本的な方針として、平成20年7月に策定しました。

めざす都市のすがた

田園に包まれた多核連携型都市
—新潟らしいコンパクトなまちづくり—

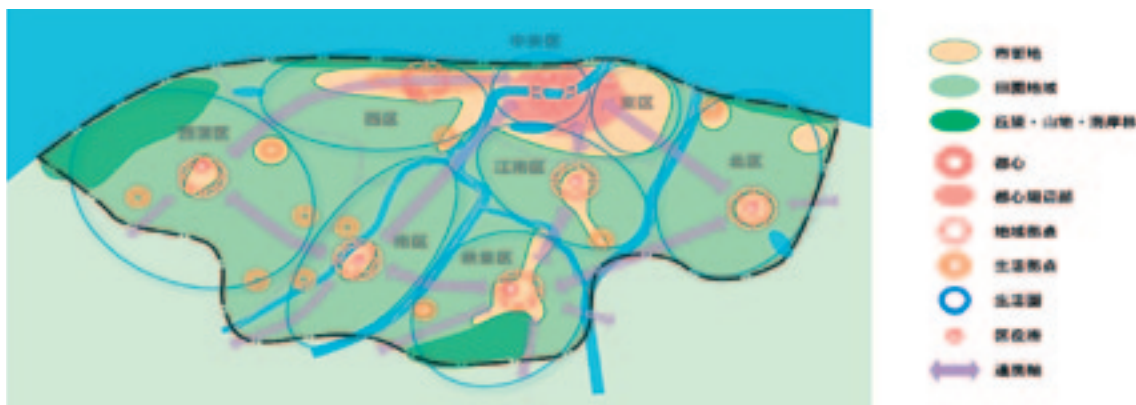
これは、「田園・自然」に囲まれたまち（市街地）が、まちなかを中心としたまとまりのある（コンパクトな）まちを形成し区（生活圏）の自立性を高めることと、それぞれの区の連携を高めることにより、様々な個性と魅力をもつ連合体としての新潟市を目指すものです。

都市全体の構造

都市全体の構造を、以下の3つの要素から考えます。

- 市街地形態の維持と田園・自然の保全
- 都市及び地域の拠点の育成
- 地域の拠点間の連携

図 都市構造概念図

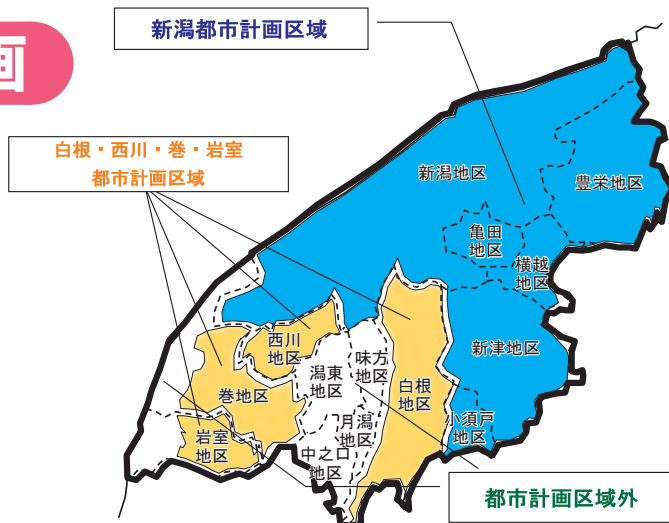


新潟市の主な都市計画

都市計画区域

新潟市域	72,610ha	
新潟都市計画区域※	43,408ha (57,876ha)	線引き
白根都市計画区域	7,706ha	非線引き
西川都市計画区域	2,473ha	〃
巻都市計画区域	4,980ha	〃
岩室都市計画区域	2,202ha	〃
都市計画区域外	11,841ha	

※新潟都市計画区域は、新潟市、新発田市、聖籠町で構成。()内は区域全体の面積



主な取り組み

- 本市の初めての取り組みとして、平成22年1月には住民主体のまちづくりである「東青山1丁目地区地区計画」を、平成22年2月には建築物の高さの最高限度を定める「高度地区(西大畑周辺地区)」をそれぞれ決定しました。
- 都市計画区域の再編、市街化区域及び市街化調整区域の見直しに取り組んでいます。

(都市計画課)

コミュニティを醸成する市街地整備の推進

鳥屋野潟南部開発計画

ー水と緑に恵まれた自然・優れたアクセス性 鳥屋野潟南部は都市のアメニティゾーンー

「鳥屋野潟南部開発計画」は、新潟市内にあって豊かな自然を残す鳥屋野潟に隣接するとともに、高速交通網の結節点に位置する鳥屋野潟南部地区約270haにおいて、環日本海地域の拠点にふさわしい環境の優れたアメニティ空間の創出、新しい都市機能の導入を行うもので、民間活力の導入を図りながら、県・市・亀田郷土地改良区の三者で、整備を推進しています。

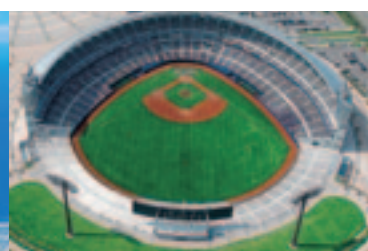
新潟市民病院



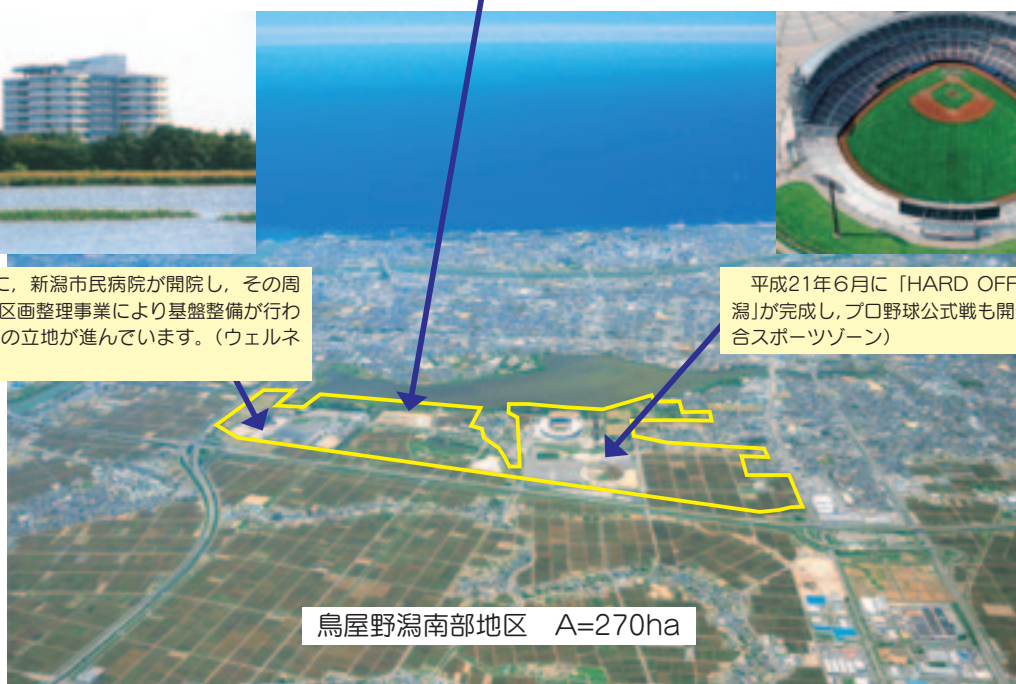
平成19年11月に、新潟市民病院が開院し、その周辺において、土地区画整理事業により基盤整備が行われ、病院関連施設の立地が進んでいます。(ウェルネスゾーン)

(仮称) 食と花のいがた交流センター建設地

HARD OFF ECOスタジアム新潟



平成21年6月に「HARD OFF ECOスタジアム新潟」が完成し、プロ野球公式戦も開催されています。(総合スポーツゾーン)



鳥屋野潟南部地区 A=270ha

まちなかのリニューアル

ー中心市街地を活性化し、にぎわい・魅力のあるまちなかを創出しますー

民間建築活動との連携により土地の高度利用と都心居住の促進を図り、誰でも利用できる広場や緑地等の公開空地を整備することで中心市街地のにぎわい再生を推進します。また、中心市街地において、公益施設等の都市機能の導入やにぎわい空間を創出するため、空きビルの活用や公開空地等の整備を支援する暮らし・にぎわい再生事業に取り組みます。



【寄居町地区
まちなか再生建築物等
整備事業】
既成中心市街地である
古町周辺地区に建築され

た築40年余りを経過した老朽マンションを建替え、優良住宅による都心居住の促進と公開空地による周辺環境の改善を図りました。



【西堀通6番町地区
まちなか再生建築物等整備事業】
低未利用地に、住宅と商業施設による複合ビルを建設し、都心居住の促進と土地の合理的かつ健全な高度利用により、中心市街地の活性化を図ります。

緑豊かな敷地内通路



(市街地整備課)

住民参加のまちづくりの推進

より多くの市民がまちづくりに興味を持ち、より多くの市民が参画するまちづくりを推進します。

(主要事業)

- ・まちづくり勉強会の支援
- ・まちづくり講座の開催

まちづくり勉強会
(早川堀通り歩道舗装ブロック現地確認)



まちづくり講座



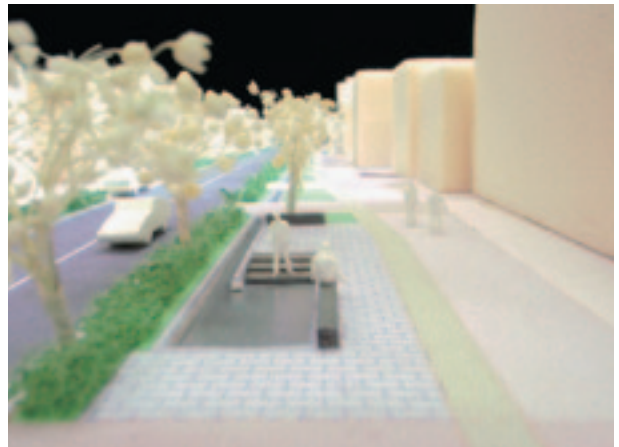
賑わうまちなかの推進

〇みなとまち新潟の歴史と文化を活かしたまちづくりを推進します。

(主要事業)

- ・早川堀通り水と緑のみちづくり推進事業

早川堀通り整備案の模型

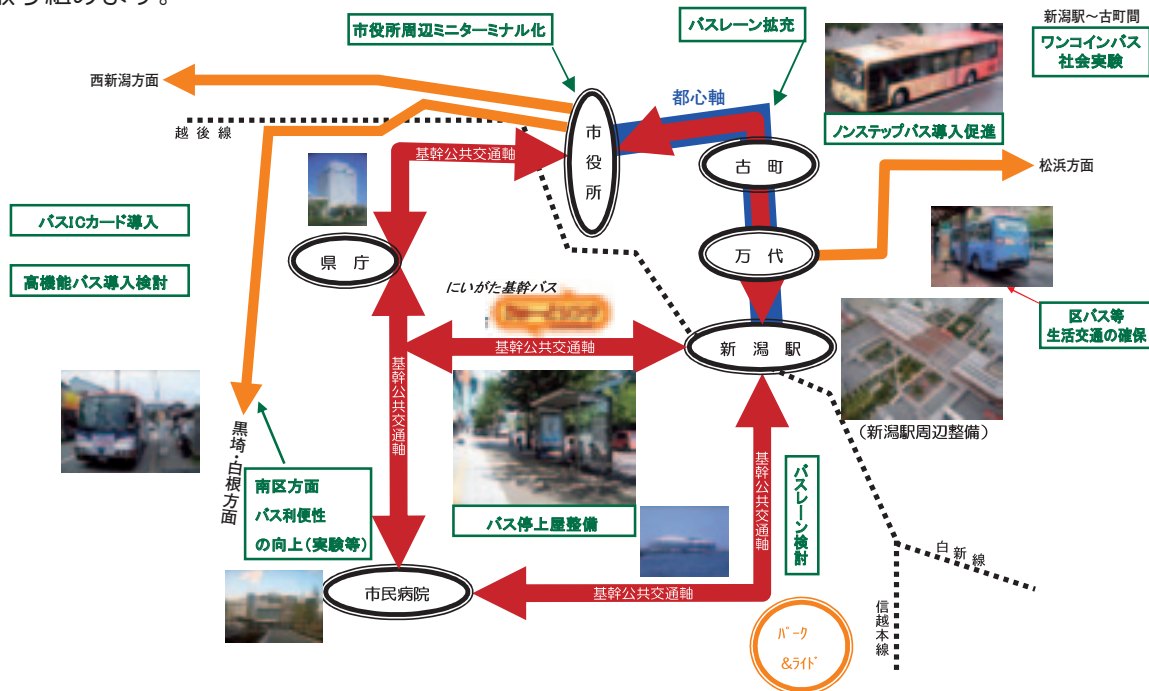


(市街地整備課)

快適に移動できる交通利便都市を目指して

「にいがた交通戦略プラン」&「オムニバスタウン計画」の推進

基幹公共交通軸を中心にバス交通の機能強化を図るとともに、区バスや住民バスなどにより、生活交通の確保に向けて取り組みます。



新たな交通システムの導入に向けた検討

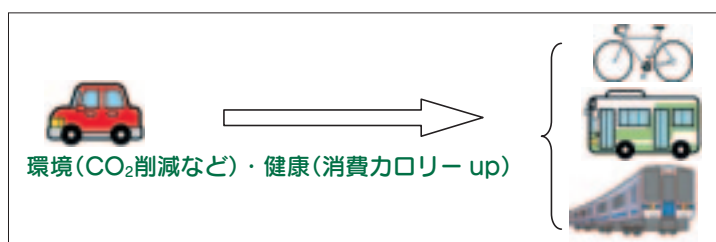
本市にふさわしい新たな交通システムの将来的な導入を見据え、基幹公共交通軸を中心としたルートや導入システム（次世代型バスシステム（BRT）、LRT、小型モノレール）、導入効果について総合的に検討を行います。

【各システムの導入イメージ】



モビリティ・マネジメントの推進

ノーマイカーデーの実施など市民の意識啓発により過度なマイカー依存からの脱却を目指します。



※モビリティ・マネジメント（MM）とは、過度に車が利用されている状況において公共交通や自転車などへ自発的な交通行動の変化を促すコミュニケーションを中心とした交通施策

（都市交通政策課）

～日本海交流都市の拠点づくり～

新潟港利用活性化事業

経済成長著しい東アジアの活況の中、我が国にとって日本海物流はますます重要性を増しています。

このような状況下、国は、我が国港湾の国際競争力強化のための戦略として、“日本海拠点港湾”について本格的に検討する方針を打ち出しました。

まずは県とともに新潟港の拠点港湾選定に取り組み、対東アジアとの近接性や本州日本海側で群を抜くコンテナ取扱量を誇る優位性など、新潟港の可能性を最大限に活用し、東アジアの時代に相応しい日本の国づくりに貢献していきます。

そのためにも、新潟港の将来性（伸びしろ）にとって重要なコンテンツとなる東港の新規バースの早期供用や、現在、運休中の日本海横断航路の再開に向けて取り組むとともに、県内はもとより北関東圏も視野に入れた積極的なポートセールスを展開していきます。



新潟空港利用活性化事業

新潟空港の航空需要の拡大及び活性化を図るため、PRを積極的に行います。また、国内・国際各路線の新設・拡充を図るほか、既存の国内6路線・国際6路線の拠点性を高め、利用客増や国際交流を促進するための事業を実施します。

中国首都圏方面への新規航空路開設のため、航空会社へのエアポートセールスの実施及び関係機関との交流推進を図り、積極的な働きかけを行っていきます。

万代島にぎわい空間創出事業

万代島の「地方卸売市場 新潟魚市場」跡地を活用し、民設民営により地元の鮮魚などの販売を行う「市民市場」を中心とするにぎわい空間を展開することで、「みなとまち新潟」の都市イメージを内外にアピールして交流人口の拡大を図り、活力と魅力ある「にぎわいの港」づくりを行います。

平成22年度は施設整備を行い、秋頃のオープンを目指しています。



(港湾空港課)

新潟駅周辺整備事業概要



新潟駅周辺整備は、鉄道を挟んだ南北市街地の一体的な整備を図り、環日本海の中核拠点都市にふさわしい都市機能の強化や、都心としての象徴的な地域づくりに向け、鉄道在来線の高架化や幹線道路・駅前広場などの都市基盤をはじめ、駅周辺市街地の整備を図ることを目的としています。

- 鉄道連続立体交差化
事業名：JR信越本線等新潟駅付近連続立体交差事業
延長：L=約2.5km
撤去踏切：米山踏切，天神尾踏切

- 幹線道路の整備
新潟鳥屋野線 W=30m, L=816m
新潟駅西線 W=22m, L=831m
新潟駅東線 W=22m, L=750m
明石紫竹山線 W=18~22m, L=766m
出来島上木戸線 W=22m, L=1,855m, うちL=1,197m分のみ事業認可

- 駅前広場の整備
万代広場 約1.7ha
南口広場（弁天線含む） 約1.4ha
高架下交通広場 約0.4ha

連続立体交差事業（仮線施工状況）

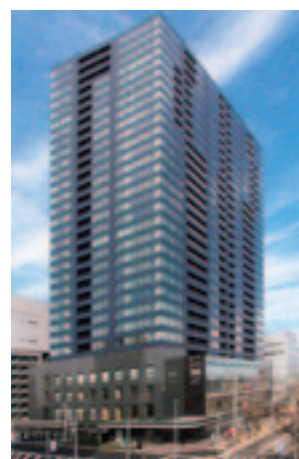


JR信越本線等は、新潟駅周辺の約2.5kmの鉄道を高架化することにより、県都新潟市の陸の玄関口として環日本海の中核拠点都市にふさわしい都市機能の強化のため、踏切除去（2箇所）による踏切事故の解消、都市内交通の円滑化、さらには、鉄道で分断された市街地の一体的な整備を総合的に行う事業です。平成22年度は、高架化に伴う仮線路盤の整備や橋梁工事を行なっています。

第二地区市街地再開発事業

新潟駅直近の立地を活かした高度な商業業務と都心居住を促進し、これまで低未利用地だった当地区の土地の有効利用を実現しました。また、新潟駅西側連絡通路・プラカ3を結ぶデッキ、広場、けやき通り沿いの壁面後退などにより、快適な歩行者空間を創出しました。

- (LEXN 1)
・規模：地下1階，地上31階
・主要用途：商業施設，業務施設，住宅，駐車場
- (LEXN 2)
・規模：地上11階
・主要用途：駐車場，商業施設，スポーツ施設
- (LEXN B)
・規模：地上7階
・主要用途：商業施設，業務施設



(新潟駅周辺整備事務所)